MINKABU THE INFONOID
株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望＝ドル円は堅調な推移か

［１２月１３日からの１週間の展望］

－－

週間高低（カッコ内は日）　12 月 6 日～ 12 月 10 日

	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比
ドル・円	112.68	113.95(8)	112.61(6)	113.55	+0.75
ユーロ・ドル	1.1309	1.1355(8)	1.1228(7)	1.1299	-0.0016

＝＝

国内株・金利／米国株・金利

	終 値	前週末比		終 値	前週末比
日経平均株価	28,437.77	+408.20	日本10年債利回り	0.055	+0.002
ダウ平均株価	35,754.69	+1174.61	米10年債利回り	1.499	+0.156

＝＝

＜来週の主要経済統計等＞

１３日　日銀短観（１２月調査）
　　日本１０月機械受注高
１４日　日本１０月鉱工業生産指数確報値
　　英１１月雇用統計
　　スイス１１月生産者・輸入価格
　　ユーロ圏１０月鉱工業生産指数
　　米１１月生産者物価指数
１５日　ＮＺ第３四半期経常収支
　　中国１１月小売売上高、中国１１月鉱工業生産指数
　　英１１月消費者物価指数、英１１月生産者物価指数、英１１月小売物価指数
　　米１１月小売売上高、米１２月ＮＹ連銀製造業景気指数
　　米１１月輸入価格指数
　　カナダ１１月消費者物価指数、カナダ１０月製造業出荷
　　米連邦公開市場委員会（ＦＯＭＣ、１４～１５日）政策金利
　　米１０月対米証券投資
１６日　ＮＺ第３四半期国内総生産（ＧＤＰ）
　　日本１１月貿易収支
　　豪１１月雇用統計
　　スイス銀行（ＳＮＢ）政策金利
　　ユーロ圏１０月貿易収支
　　英中銀（ＢＯＥ）政策金利
　　欧州中央銀行（ＥＣＢ）政策金利
　　ラガルドＥＣＢ総裁記者会見
　　カナダ１０月卸売売上高
　　米新規失業保険申請件数、米１１月住宅着工・許可件数
　　米１２月フィラデルフィア連銀景況指数
　　米１１月鉱工業生産・設備稼働率
１７日　日銀金融政策決定会合（１６～１７日）金融政策発表
　　独１１月生産者物価指数
　　英１１月小売売上高
　　独１２月ｉｆｏ景況感指数
　　ユーロ圏１１月消費者物価指数

－－

【前回のレビュー】 オミクロン株に関するニュース報道、米経済指標や米国株や米長期金利の動向などを眺めながらドル円は112～113円台を中心に一進一退の動きが続くと

みられる。10日米消費者物価指数が上振れするようなら、114円台を回復する可能性もあるとした。

【オミクロン株への警戒感がやや後退】
　新型コロナウイルスの新たな変異株であるオミクロン株の世界的な感染拡大が警戒されたものの、その後はやや落ち着きを見せている。オミクロン株の感染力は強いとみられ、感染は拡大している。ただ、重症化するケースは少ないと報じられていることもあり、過度な警戒感は後退している。

　ファイザーが新型コロナウイルスのワクチンの３回目の接種はオミクロン株に対しても高い予防効果を持つとの調査結果を発表したことなども、警戒感の後退につながっている。

　ＮＹダウは8日までの3日間で1100ドル超の上昇となり、米10年債利回りは3日の1.34%台から8日には1.52%台まで上昇した。市場のリスク警戒を示す恐怖指数（VIX指数）は3日の30近辺をピークにして、8日に20割れまで低下した。その後、9日には米株高は一服、米10年債利回りは低下して、VIX指数の低下も一服している。

　こうした中、ドル円は112台半ばまで下落した後、113円を回復して8日には114円に接近した。その後は伸び悩みを見せて、113円台で推移している。米国では金融正常化への思惑とオミクロン株への警戒感が交錯する中、オミクロン株への警戒感が後退して、ドル円は緩やかな上昇を見せている。

　12月13日の週は米連邦公開市場委員会（FOMC）、英金融政策委員会（ＭＰＣ）、欧州中央銀行（ＥＣＢ）理事会など金融政策を決定する重要イベントが目白押しとなっている。これらのイベントの中で14～15日のFOMCは最も注目を集めるイベントとなっている。

#

　11月30日の米連邦準備制度理事会（ＦＲＢ）のパウエル議長の議会証言では、「物価上昇が"一過性"としてきた表現を外すよいタイミングがきた」と発言して、インフレへの見方をこれまでから軌道修正した。また、「次回のＦＯＭＣで資産購入ペースの縮小を加速することについて協議する」との見解を示している。パウエル議長の証言を受けて、市場では金融政策の正常化が加速するとの見方が広がっている。

　テーパリングを前倒して終了させることをすでに表明しており、今回のFOMCではどれくらいの期間で終了させるかがポイントとなる。市場関係者の間からは２月から３月にかけてテーパリングを終了するとの観測も出ている。市場の焦点は、その後の利上げ時期や利上げのペースがどうなるかに注目が集まっている。また、今回はFOMCメンバーによる政策金利見通しや経済成長率、物価見通しなども公表される。

　金融市場全般にデルタ株の感染拡大やオミクロン株への警戒感は残るものの、FRBの利上げ開始やその後の利上げのペースなどに関心がシフトして、ドル円は底堅い展開が見込まれる。114円台を回復して、緩やかに上値を追う展開となりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、112.50～115.00円。

　今後の日米の経済指標やイベントとしては、１３日に日銀短観（１２月調査）、日本１０月機械受注高、１４日に日本１０月鉱工業生産指数確報値、米１１月生産者物価指数、１５日に米１１月小売売上高、米１２月ＮＹ連銀製造業景気指数、米１１月輸入価格指数、米連邦公開市場委員会（ＦＯＭＣ、１４～１５日）政策金利、パウエルFRB議長記者会見、米１０月対米証券投資、１６日に日本１１月貿易収支、米新規失業保険申請件数、米１１月住宅着工・許可件数、米１２月フィラデルフィア連銀景況指数、米１１月鉱工業生産・設備稼働率、１７日に日銀金融政策決定会合（１６～１７日）金融政策発表などがある。

【ユーロドルは上値の重い展開か】
　16日の欧州中央銀行（ＥＣＢ）理事会が開催される。パンデミック緊急購入プログラム（ＰＥＰＰ）が来年３月に終了するため、これを補う手段を打ち出してくる可能性が

ある。従来の資産購入プログラム（APP）を一時的に拡大する可能性を指摘する見方も出ている。

　ECBはFRBと比べて相対的にハト派的なスタンスを示している。FRBはテーパリングの早期終了を志向しており、一方でECBは緩和継続姿勢を示すとみられる。政策スタンスの相違もあり、ユーロドルは上値の重い展開を見せることとなりそうだ。ユーロドルは1.13ドル近辺でのもみ合い一巡後は下落基調で推移するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは１．１２００～１．１４００ドル。

　日米以外の今後の経済指標やイベントは、１４日に英１１月雇用統計、スイス１１月生産者・輸入価格、ユーロ圏１０月鉱工業生産指数、１５日にＮＺ第３四半期経常収支、中国１１月小売売上高、中国１１月鉱工業生産指数、英１１月消費者物価指数、英１１月生産者物価指数、英１１月小売物価指数、カナダ１１月消費者物価指数、カナダ１０月製造業出荷、１６日にＮＺ第３四半期国内総生産（ＧＤＰ）、豪１１月雇用統計、スイス銀行（ＳＮＢ）政策金利、ユーロ圏１０月貿易収支、英中銀（ＢＯＥ）政策金利、欧州中央銀行（ＥＣＢ）政策金利、ラガルドＥＣＢ総裁記者会見、カナダ１０月卸売売上高、１７日に独１１月生産者物価指数、英１１月小売売上高、独１２月ｉｆｏ景況感指数、ユーロ圏１１月消費者物価指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>
本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>
本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。